

令和5年度 第2回

立川市立中学校部活動の地域連携及び
地域移行に関する検討委員会

令和6年1月15日（月）

立川市教育委員会事務局教育部指導課

令和5年度 第2回立川市立中学校部活動の地域連携及び
地域移行に関する検討委員会

日時 令和6年1月15日(月) 午後1時30分～午後3時00分

場所 立川市役所 本庁舎 302会議室

出席委員

芦澤 清八

足立 香織

井上 隆一

小菅 隆寛

齋藤 真志

佐藤 善人

田中 義典

都築 啓志

早瀬 健介

水越 伸朗

欠席委員

唐亀 康司

出席事務局職員

産業文化スポーツ部地域文化課長

轟 誠悟

産業文化スポーツ部スポーツ振興課長

中村 達也

教育委員会事務局教育部教育総務課長

小林 直弘

教育委員会事務局教育部指導課長

佐藤 達哉

教育委員会事務局統括指導主事

片山 伸哉

教育委員会事務局教育部指導課指導係長

高橋 周

教育委員会事務局教育部指導課指導係主任

村松 真由美

次 第

1. 部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画素案(たたき台)について
2. 地域スポーツ・文化芸術団体へのアンケート調査の実施について
3. 中央大学との部活動連携(トライアル事業)について(報告)

資料1: 前回検討委員会における意見の整理

資料2: 計画の構成

資料3: 【仮称】立川市立中学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画素案(たたき台)

資料4: 地域スポーツ・文化芸術団体へのアンケート調査の実施について

資料5: 推進計画素案(たたき台)概要版

資料6: 中央大学との部活動連携(トライアル事業)の実施について

令和5年度第2回立川市立中学校部活動の地域連携及び地域移行に関する検討委員会

令和6年1月15日

【委員長】

これより令和5年度第2回立川市立中学校部活動の地域連携及び地域移行に関する検討委員会を開催いたします。

1. 部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画素案(たたき台)について

【委員長】

それでは議事にはいります。次第の1「部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画素案(たたき台)について」事務局より説明をお願いいたします。

【事務局・指導係長】

それでは、事務局から説明させていただきます。

「資料1:前回検討委員会における意見の整理」をお手元にご用意ください。

前回の委員会の開催から少しお時間も経っておりますので、振り返りというところも含め、資料の説明をさせていただきます。

前回の検討委員会で委員の皆様からいただいた意見を整理し、大きく5点に分類をいたしました。

1. 部活動への参加状況

放課後の活動は、部活動以外の選択肢も多様化しており、単に部活動への参加率の向上を求めていくのではなく、その生徒に合った多様な取組があるということへの周囲の理解も大切であるというご意見をいただきました。

2. 顧問の状況

若手の教員が部活動の指導で自分の時間を確保できない、専門的な知識がないために、指導方法に悩みを抱えているケースや、練習や試合で休日がなくなってしまうので、部活動の指導は辛いといった声も現場からはあげられているというご意見をいただきました。

3. 指導者の量の確保と質の向上

地域人材の発掘や活用、指導者の量の確保と質の均衡についてどう整理をし

ていくのか。指導者に求める質は、専門技術的な能力だけではなく、ハラスメントの防止など、教育的な観点からの質といった点も考えていかなければならないこと。

また、平日の学校部活動と休日の地域クラブ活動で指導の一貫性をどう確保していくのかというご意見をいただきました。

4. 時間軸で整理する取組の方向性

地域クラブ活動の受け皿となる団体が地域になれば、部活動の地域移行は難しいので、改革推進期間中の短期間で着手できること、もう少し先を見据えた中長期的な視点で考えていかなければいけないことを整理していけると良いというご意見をいただきました。

また、改革推進期間は、今やっている取組の拡充や、モデル校をつくって、新たな取組を試行的に進めていくなど、できるところから、着実に取組を進めていければ良いのではないかとご意見をいただきました。

5. 地域移行も見据えた新たな地域連携のあり方

改革推進期間における取組として、合同部活動の実施や、近隣の大学など、地域団体と連携した取組などを実施することも考えられるというご意見をいただきました。

以上、大きく5つのポイントに整理し、基本的な考え方を、資料3で示す計画素案（たたき台）に反映しております。

続きまして「資料2：計画の構成」と「資料3：計画素案（たたき台）」をお手元にご用意ください。「資料2：計画の構成」は、計画の全体像と各項目の概要について説明したものになります。「資料3：計画素案（たたき台）」と見比べていただきながら、計画の内容について説明いたします。

資料2の「1. はじめに」が資料3計画素案（たたき台）の1ページ目に対応しています。

1. はじめに（資料3：1ページ）

ここでは、国や東京都が示す、部活動改革の方向性や計画策定の目的、本市としての推進目標を示しております。

改革推進期間における本市の推進目標は、東京都の推進計画と整合を図り、全ての市立中学校で、休日の部活動から段階的に地域連携・地域移行の取組が行われていることを目指すこととしております。

2. 市立中学校における部活動の現状と課題 (資料3：2～6ページ)

市立中学校の少子化の進展状況や部活動の実態、部活動指導における教員の実態、部活動の地域連携の状況等を示し、本市としての課題を整理しています。

本市の課題としては、少子化の影響の兆しが見え始めており、学校単位での活動が困難になっている状況が見られる点や、教員の専門性や意思に関わらず、部活動の顧問を務めるこれまでの指導体制の継続が困難な状況が見られる点、これまでも部活動の地域連携の取組を進めてきているが、指導員が辞めてしまうケースや、指導員の配置が必要な部活動に対し、適切な地域人材が見つからないケースがあるといった点を課題として整理をしております。

3. 部活動の地域連携・地域移行における基本方針 (資料3：7～9ページ)

課題に対し、国や東京都のガイドラインを参考にしながら、本市としての基本的な考え方や、取組の方向性を基本方針として示しております。こちらは、改革推進期間に限らず、中長期的な視点で捉えて、検討が必要なこと、これから準備が必要なことなども含め、基本方針として示しております。

基本方針として5つの柱立てをしています。

基本方針(1) 地域におけるスポーツ・文化芸術活動環境の整備

こちらについては、3点で取組の方向性を整理しております。

①の「生徒のニーズを踏まえたスポーツ・文化芸術活動環境の整備」では、学校部活動や地域クラブ活動は、決して参加を強制されるものではなく、生徒の自主的・自発的な参加が基本となる活動であることを前提とし、生徒の多様なニーズにこたえた活動を行うことができる環境の整備を図っていくことを示しております。

②の「地域クラブ活動の運営団体・実施主体の確保」では、地域団体との連

携・協働により、地域クラブ活動の受け皿となる運営団体・実施主体の確保に努めていくことを示しております。

③の「関係者間の連携体制の整備」では活動中の事故やトラブル、指導方針など、部活動を地域クラブ活動に移行していく過程で生じると考えられる様々な課題に対し、地域クラブ活動団体や学校、市などの関係者間での連携を密にしていくことが大事になることから、関係者間の連携体制の整備を図っていくことを方針として示しております。

基本方針（２）指導者の量の確保および質の向上

①の「指導者の量の確保」という点では、地域団体等との連携により、地域人材の把握・発掘に努めるとともに、指導者を学校部活動や地域クラブ活動団体とマッチングできる体制の整備を図っていくことを示しております。

②の「指導者の質の向上」という点では、まずは、有資格者に限らず、地域で競技経験のあるOBやOG、近隣の大学の学生など、専門性や資質・能力を有する指導者を地域の中で広く確保していきつつ、指導者の養成や資質向上に向けた取組を進めていくことを方針として示しております。

また教育的な観点からも、暴言・暴力、行き過ぎた指導、ハラスメントの根絶などにも留意し、研修会の実施やガイドライン等の情報提供を行っていくことを合わせて示しております。

基本方針（３）活動場所の確保

こちらでは、地域クラブ活動団体が活動場所を確保しやすい環境づくりについて示しております。

基本方針（４）大会等のあり方

大会の参加方法や教員の引率など、大会主催者による大会のあり方等の見直しがあった際は、適切な対応を図っていくことを示しております。

基本方針（５）地域クラブ活動における会費及び保険のあり方

地域クラブ活動に参加するための会費の設定や保険のあり方に係る基本的な

考え方を示しております。なお会費については、国は原則として、受益者負担という考えを示しておりますが、経済的な理由で参加をあきらめる生徒が出ないよう、困窮世帯等への支援については、今後、国や東京都の動向等を踏まえながら展開を検討していくことを示しております。

以上、国・東京都のガイドラインとも整合を図りながら、中長期的な視点も含めた本市としての5つの基本方針となります。

4. 改革推進期間における主な取組 (資料3：9～10ページ)

ここでは、基本方針に基づき、改革推進期間に着手していく主な取組を大きく3点で示しております。

(1) 部活動の地域連携・地域移行に関する検討委員会の開催

本検討委員会で、今後、改革推進期間における各種のトライアル事業の検討や創出、効果検証等を通じて、中長期的な視点での地域連携・地域移行のあり方等について検討を進めていくことを示しております。

(2) 情報発信

部活動の地域連携・地域移行という大きな変革期において、生徒や保護者、教員、地域のスポーツ・文化芸術活動団体等が共通理解のもとに連携・協働して、できるところから着実に進めていく視点が重要になりますので、市ホームページや広報誌等での周知や各種の説明会の開催などを通じて、広く情報を発信していくことを示しております。

(3) 地域連携・地域移行に向けたトライアル事業の実施

前回の委員会でもお話が出ましたが、単独でチームを組むことが難しい部活動や、専門的な技術指導を行うことが難しい部活動などから、モデル校を選定し、複数の中学校が参加する形での合同部活動の実施や、地域団体との連携・協働による部活動の実施を行っていくことを示しております。

なお、実施にあたっては学校間あるいは学校と地域団体が連携を密に行うこ

とを前提に、教員の負担軽減の観点を含めた実施方法の検討・検証を併せて行っていくことも示しております。

5. 本計画の見直しについて (資料3：10ページ)

東京都の推進計画は、現時点における基本的な考え方や取組の方向性を示しており、今後の取組の進捗状況等、必要に応じて、内容の見直しや改訂を行うことが示されております。本市の推進計画も同様に、都の推進計画の改訂や、本市の各種の取組の検討状況・進捗状況等に応じて、必要な見直しや改訂を行うものとしします。

例えば 10 ページの改革推進期間における主な取組のスケジュールは、現時点で実施していくことが確認できているものを記載しております。現時点では、中央大学と連携したトライアル事業を実施していくことを、相手方とも確認をしておりますが、今後、他の地域団体とも協議し、トライアル事業を増やしていきたいと考えております。関係者間の協議状況等に応じて、このあたりの内容が適宜更新されていくものと考えております。

雑駁ではございますが計画素案（たたき台）の説明は以上となります。

【委員長】

ご説明ありがとうございました。それでは、ご説明いただいた、計画素案（たたき台）について協議したいと思えます。

まず、この内容について、ご質問がありましたらお願いします。

< 質問無し >

【委員長】

では、途中でご質問が出てきたら、その時にご質問いただきたいと思います。

次に、ご意見やご感想などをお聞きしたいと思います。まずは、委員同士で、「ここはこう思う」など、率直に意見を言い合えると良いと思えます。最後に事務局の方で何かありましたら、ご意見頂戴できたらと思えます。

【A委員】

非常にわかりやすくまとめていただき、ありがたく思っております。

中学校の校長という立場で前回もお話をさせていただきましたが、計画素案（たたき台）にも記載があったように、顧問にしてみると、平日は勤務した後の活動になりますが、休日の活動の部分がやはり負担になっていると感じています。

【委員長】

ありがとうございます。

今回の資料ですと、例えば合同部活動にして、生徒を集めて、教員が部活を指導したり、地域の大学との連携や、地域団体との連携を進めていきたいと書かれています。すごく重要な視点だと思います。

皆様、いかがでしょうか。教員の負担を減らすという視点もありますし、地域で子どもを育てるといような視点もありますし、そういったことで、今回のたたき台を含めて、ご意見、ご感想をお願いします。

<意見無し>

【委員長】 それでは、人を手当するといったあたりでいかがでしょうか。

【B委員】

教員の負担軽減について、計画への落とし込みの必要性についてご意見いただきました。中学校部活動については継続的に人材を確保していきたいというところがあり、そこを担う人材として、教員、あるいは外部の人材を、どう有意義に活用していくかが課題です。総論では教員が大変ということになるかと思いますが、今後はそれぞれの学校、それぞれ個々の部活動の負担の状況について評価が必要かと思います。今回の計画への落とし込みも、教員の負担軽減については盛り込んだ上で、今後、それをどのように改善していくのかについては、各論の中で、現場の方、あるいは今後新たに関わっていただく方にどういった支援が適切なのか、細かく議論していく必要があるのかと感じました。

【委員長】

現場の先生がどう考えているかについて、総じて負担になっているだろうとは予想がつきますが、アンケートをとってみても良いかもしれないですね。異動される先生も多いと思いますが、立川市内で異動している先生方も多いと思いますので、先生方がどういうことを考えて、どういうニーズがあるのかについて、アンケートをとるのも良いのかと思いました。

その他、人という視点で、ご意見頂戴できればと思います。

【C委員】

資料3の7、8ページの「指導者の量の確保及び質の向上」あたりに係る話ですが、今回、中央大学とトライアルでやっていただけるそうですが、中央大学の学生さんは、教育課程の学生なのか、それとも、競技経験はあるけれども、教育関係の勉強をしていない学生なのか、ご説明いただきたいです。

【事務局・指導係長】

中央大学との部活動連携についてですが、資料6をご覧ください。

イメージ図で示しておりますが、中央大学の学事・社会連携課を窓口にし、中央大学のスポーツセンターから、体育会の競技部や準体育会の競技グループ、幅広くサークル団体、そういったところの学生さんにお声を掛けいただき、マッチングをしていただきます。基本的には、競技経験がある学生といった整理をしております。

【C委員】

前回の委員会で少し話しましたが、幼少の頃から競技経験のある子と、中学生で初めて部活動でその競技をする子とのあいだに能力差があり、そこを出発点にいじめに発展しているケースを、これまで目にしてきました。そのあたり、先生や、その部活に関わっている保護者なども含めて、いじめの沈静化といえますか、そういうことをしないように指導をしていると伺っています。

今後、質の向上の面で研修会などされるということですので、そのあたりも含めて、学生さんには、発達途上にある中学生の心の面での成長もケアしてい

ただければ良いと思います。

もう一点、活動場所の確保についてですが、「市の施設が指定管理者になってから、一番条件の良い時間帯が、指定管理者に取られてしまい、それまで行っていた活動場所がその時間帯で確保できなくなってしまった」といった話を聞いたことがあります。

今後、活動場所をどのように確保・担保していくのかというのが課題ではないかと思っております。

【委員長】

ありがとうございます。活動場所の確保というのは、基本的にはこれまで通り、学校の施設を使っていくという考えでよろしいのでしょうか。大会などで、市の施設等を使うということはあると思いますが。

【事務局・指導係長】

学校施設を、学校部活動と地域クラブ活動、合わせて活動場所として使用することを考えています。その他、市の公共施設として、体育館や文化芸術施設といったところを想定し、活動場所の確保ということで整理しております。

【委員長】

ありがとうございます。今、委員がおっしゃられたように、例えば合同で部活動をやる時の学校間の中間の場所ですとか、もしくは市の施設ですとか、そういった場所を使うときに、子どもたちの活動が妨げられないようにご配慮いただけるとありがたいと思います。

【D委員】

先ほどご意見のあった、総論と各論というのが、私も気になっています。全体的に教員の負担軽減をしたいという意識があるのは認識していますが、それが時間なのか指導に係るものなのか。

先ほどお話がありましたように、平日は良いけど、土日の引率等が負担ということであれば、そこに指導者が必要ですし、平日と休日で指導が必要なのか

というのが、各学校によって違うのかと思います。もう少し各学校の具体的な実態が見えてくると、場所の確保の話も含め、議論を深めていくことができるのではないかと思います。

【委員長】

学校の先生方の意見が、もう少し具体的にありましたら、イメージがつくかと思いますが、いかがでしょうか。

【A委員】

正直なところ、負担感についてはそれぞれの教員によります。一生懸命、部活動指導をやりたい教員もいますし、そこは教員の意思とマッチングできていれば良いのですが。運動部に限ると、大会の数が多くなっているという指摘があります。そのため、大会への引率で、毎週のように休日に行かなくてはいけない負担があるとは聞きます。

【委員長】

先生方によると思いますので、全くその通りだと思います。

スポーツ庁は、基本的には地域連携、そして地域移行を進めようということで、次のフェーズに入っています。ですから、先生方が個別に、これまで通りやるというフェーズではなく、これまで通り指導に携わりたい先生方は、兼職兼業の許可を得て、地域スポーツの指導者として関わってもらうのが全体の流れだと思います。

基本的に、これまでの部活動の形を完全に認めたままでいく、地域連携・地域移行ではないと思うので、そこは少しダイナミックに考え方を変えて、これまでベースではない部活や地域クラブ活動のあり方を考えなければいけないということを、国全体の流れを見て思います。

ほか、いかがでしょうか。

【E委員】

部活動の教育的意義や役割を地域が継承発展しつつありますが、部活動って、

例えば先輩が自分たちの代で部員を引っ張っていくなど、活動以外に、中学校3年間の生活の中で、団体生活を自分たちの意思でやっていくというような、教育的な考えなどもあると思います。このあたりの教育的意義というところを、もう少し明確にし、何を地域の団体に地域クラブ活動として継承していくかを明確にしていった方が良くと思います。

【委員長】

すごく重要な視点だと思います。皆様も、昔部活動をされていた方が多いのではないかと思います。

部活動は競技や技術だけではない学びの保障にもなるかだと思います。ざっくりばらんに、「こんなことを学んだ」、「こういうことを教えていただいた」など、ご意見ないでしょうか。

【F委員】

個人的なところですが、中学校の部活で野球をやっていました。今は馴染みませんが、当時は先輩の言うことは絶対で、先輩の指導にはしっかりと従う、その先輩も、走塁や捕球の仕方などを細かく教えてくれました。先生から教わるより、先輩から多くのことを教わりました。そして、自分の学年が上がると、今度は自分たちがそのように後輩に指導していく。そういったものが自然に受け継がれていました。それが教育的意義なのかと思います。集団行動・集団生活のあり方のようなところは、部活動から非常に多く学んだと思います。

あと、指導者の質の向上について、資料3の8ページの②のところですが、やはり、地域移行の場合には、技術さえあればどなたでも良いというわけではないので、体育協会さんが企画されている、指導者のための講座などに参加していただくのも良いと思いますし、将来的には、指導者をご紹介いただけるような人材バンク的なところも必要かと思います。

幸いなことに、立川市の場合には、プロスポーツ連絡会があり、プロで活動しておられる方も多くいらっしゃいますので、そういう方との連携も必要かと思います。そういう形があると、地域で活動をするときに、どの組織に頼むと良いアイデアをもらえそうとか、こういう人材がいるのではないかという、

マッチングするきっかけになるのかなと思いました。

【委員長】

ありがとうございます。人材バンクという重要なご指摘だったと思います。また、良い意味での上下関係が教えられるというのも、部活動の教育的意義の大切な一つだと思います。

ほか、いかがでしょうか。教育的意義に関して、学んだこと、大切にしたことなどございますか。人についても結構ですし、内容についての感想でも結構です。

【G委員】

今の子どもたちは、我々の頃とは違い、非常に繊細なところがあり、接し方が難しいことがあります。特に外部の指導者の場合は誰でも良いというわけではなく、指導者の質が重要かと思います。専門的知識や技術を持った方は結構いると思いますが、ただ技術があるだけではなく、人間的な面や、子どもたちとうまく接し、会話することができる、そういった指導者を、いかに確保していくかが一番重要かと思います。

私も、部活動は先輩・後輩の縦の関係が厳しい時代でした。でも、今はそういったことはなく、先輩から受け継ぐというのも、少ないように感じています。良い意味で本当に仲良しで、和気あいあいとやっています。

適切なアドバイスができる指導者を見つける、これが一番難しいところかと思えます。

【委員長】

重要なご指摘だと思います。人だけ集めても、それがマイナスに働くことがあると思います。質と量というのは、両睨みでやらないといけないことで、先ほど人材バンクの話もありましたが、きちんと定期的に研修会をするなど、また、後ほどのトライアル事業でご説明あるかもしれませんが、例えば学生さんを使うときでも、何かしらのフィルターを通さないと、すぐに派遣できるものではないのかと思います。

【委員長】

人以外の部分で私が気になったのは、資料3の9ページの主な取組の(1)、(2)、(3)あたりです。例えば情報発信、具体的にどういうことを考えているのかとか、その前の基本方針の大きな5つの柱が、この(1)、(2)、(3)と、どのように繋がっているのか気になります。課題は、基本方針ではきちんと述べられていますが、推進期間の取組とどうリンクしているのかが、少しわかりにくいので、そこを整理して、明確になると良いのかと思いました。

【副委員長】

まず、今回、資料2で大体の構成が書かれていて、2番目の現状と課題については、概ね資料3のような書き方で良いと私は思います。現状と課題は、データを整理し、わかりやすくしなければならないと置いていたところでは、

今日の議事のメインは基本方針だと思いますので、基本方針を中心に、感想など言わせていただきます。

7ページの(1)の②の「地域クラブ活動の運営団体・実施主体の確保」のところ、大学、企業、プロスポーツチーム等と記載がありますが、地域団体によって、地域連携・地域移行に参画していく方法が、だいぶ異なってくるのではないかと思います。

とりわけ、合同部活動の場合は、活動場所も、やり方も変わってくるし、プロスポーツチームとの合同見学会とか、プロチームの方々が出前で指導するなど、やり方が多様になるので、このあたり整理をしなければいけないだとうと思いました。

そして、(2)の「指導者の量の確保及び質の向上」に関わりますが、学校教員が休日に部活動指導に関わる場合は、地域の指導者として、立場を変えて関わるなどと、明確に書いた方が良いと思いました。

もちろん人数がいた方が良く、質の高い指導者が指導した方が良いのですが、費用負担の面で、どこまで対応できるのかというのは、おのずと決まってくるのかと思ったところです。

指導者の質についてですが、私が中学校で入っていた水泳部は、学校の先生が技術指導をできない方でしたが、その代わりに、近隣大学の水泳部のOBが教

えに来てくれて、質の担保はかなりできていました。逆に言えば、その指導者が来たときには、練習量も増え、競技力がすごく上がりました。ただ、合同運動部活動など、冒頭にも多様性とあるように、どこまでそういった形でできるのかというのはあると思います。

競技力向上のみならず、生徒の人格形成・人間形成といったことを考えた場合に、指導者の質の担保をどのようにするか。OB・OGで熱意のある方に指導していただくのは良いですが、教育的な視点での一定のラインを明確に引いておかないと、何かあったときに、非常に怖いなと思いました。

また、「現状と課題」のところで説明が書かれていますが、指導員には、部活動指導員と部活動外部指導員の2種類があり、報酬も違うと思うので、依頼するときに、明確にしておかないとまずいだとうと思いました。

そして、(3)「活動場所の確保」ですが、学校施設や地域スポーツ施設では、部活動や合同部活動の地域連携・地域移行団体の優先利用を認めていく旨を明記したら、市のアピールにはなると思います。既存の利用団体との調整という問題もありますが、そのくらい力を入れても良い取組かと思いました。

また、(5)「地域クラブ活動における会費及び保険のあり方」ですが、例えば、将来的に、総合型地域スポーツクラブなどが地域連携することになった場合、学校部活動と保険や会費の差がなるべく出ないようにした方が良いと思いますが、一方で、特に保険については、スポーツは危険を内在しており、活動によっては危険度がずいぶん異なるので、活動に応じた適切な保険に加入しておかないとまずいかもしいかなと思います。

また、9ページの4の(2)「情報発信」のところで、地域の団体などには、アンケートなど行うかと思いますが、学校の部活動の主体である生徒に対し、アンケートはとらないのでしょうか。難しい聞き方になると思いますが、主役の1人である生徒にも聞いた方が良いと思いました。その結果を受けての、地域連携などの新たな取組であるということを、ホームページなどで情報発信していけば、説明責任を果たしていることにもなるのかと思いました。

(3)の①「合同運動部活動」ですが、大学との連携が絶対に必要になると思います。指導の質の担保など、専門的に学んでいる学生に指導してもらうことになるかと思います。この後、中央大学との連携のトライアル事業について

もご説明があると思いますので、もう少し詳しく聞きたいです。

最後の5の「本推進計画の見直しについて」ですが、大体、国の場合は、こういった計画は、5年ぐらいで見直したりしますが、部活動の地域連携・地域移行については、今は過渡期ですので、もう少し短いスパンで更新をする必要があると思いました。

【委員長】

貴重なご意見ありがとうございました。生徒へのアンケートは重要かと思いました。

結局、生徒のためにやることなので、子どもたちがどう考えているのか。どうしても大人ばかりで考えて、主体者が不在になりがちですので、先生方へのアンケートも含め、学校に調査をかけるというのは、重要な視点かと思いました。

ほか、ご感想も含めて、ありますでしょうか。

【H委員】

子どもへのアンケートは、小学生にとってもすごく必要ではないかと思えます。

各中学校の今の部活の状況を見ますと、中学校により部活の設置状況が異なります。小学生にとっては、やりたい部活が進学する中学校にない場合もある。そういった場合に、合同部活をするというのは、一つの手だと思います。

また、クラブチームで大会に参加するというのも一つ方法だと思いますが、先ほど教育的意義の話もありましたが、中学校の部活動で教員がやるべきところには、集団の中でどう成長させていくかということも、大きなウェイトを占めていると思います。

自分が専門的にやっていた部活であれば、先生方も意欲はあると思いますが、そうではない部活を担当せざるを得ない場合であっても、技術的な指導はできなくても、教育的に、学年としての関わり方、先輩から後輩に対する関わり方など、教員が支えていかなければならないことかと思っています。

ですので、技術的なサポートは外部の方をお願いしつつ、教育的な意義、子

どもたちの成長とモチベーション、さらに技術面の向上と、教員としてうまく関わるのがとても大事なことです。教員が休日に出ないといけないというのは相当な負担だと思いますので、参加する大会の選択や、大会運営組織で、大会運営をどう考えていくかということ、提唱しなければならないのかなと思います。

【委員長】

ありがとうございます。私の周辺情報ですが、研究室にいる教員免許を持つ大学院生で、都内で部活動の引率ができる指導員に登録している子がいます。陸上経験のある子ですが、今は中学校のソフトテニス部で指導員をしています。生徒からも慕われて非常に良い指導者だと担当校の校長先生がおっしゃっていました。

ですから、必ずしも専門的な技術指導をしなければいけないということでもなく、人が良ければ、部活動の引率などは十分できるのかと思います。いろいろなパターンがあっても良いのではないかと、お聞きして思いました。

この内容について、もう少し発言しておきたいという方、いらっしゃいますでしょうか。

【副委員長】

競技系の運動部活動や、文化系の部活動でも吹奏楽と美術はイメージが湧きますが、4ページの、No.3から25の部活については、どうしたものかと。休日に活動していないところが多く、まずは休日の地域連携・地域移行から実施したいということだと思いますが、いずれは学校部活動そのものを地域クラブ活動に移行するようなことも考えられますので、文化系の部活動のことも考えていかなければいけないと思っています。

【委員長】

ありがとうございます。重要なご指摘だと思いますので、そこも踏まえて、今後も検討していけたらと思います。

2. 地域スポーツ・文化芸術団体へのアンケート調査の実施について

【委員長】

それでは、次第の2「地域スポーツ・文化芸術団体へのアンケート調査の実施について」に移りたいと思います。事務局より説明をお願いいたします。

【事務局・指導係長】

次第の2の説明をさせていただきます。

「資料4：地域スポーツ・文化芸術団体へのアンケート調査の実施について」をお手元にご用意ください。

推進計画素案の策定にあたりましては、本検討委員会でのご議論と併せて、地域のスポーツ・文化芸術団体からのご意見を参考とするとともに、本取組の周知を図るため、アンケート調査を実施します。

推進計画素案（たたき台）などについてのご意見やご感想をお聞きする予定です。

スポーツ団体に対してはスポーツ振興課、文化芸術団体に対しては地域文化課より、アンケート調査を実施します。

アンケート結果につきましては第3回の検討委員会においても報告をする予定です。

説明は以上です。

【委員長】

ありがとうございます。今ご説明いただいたアンケートについて、例えば、もう少し、こういうことも聞いた方が良いのではないか、そういったことを含め、ご意見頂戴したいと思います。

【副委員長】

具体的な団体名は非公開とありますが、例えば町道場などに聞く予定はあるのでしょうか。

【事務局・スポーツ振興課長】

今回のアンケートにつきましては、体育協会の加盟団体の連盟単位までで聞く予定で考えてございます。町道場までは予定していません。

【副委員長】

部活動に柔道、剣道、空手があったので、聞いても良いのかなと思ったところですよ。

人数もかなり限られていますし、町道場などは昔から、ある意味、地域スポーツクラブであり、単に競技力向上ばかりではないようなところもありますので、その辺は、少し頭に入れておいても良いのかと思いました。

【D委員】

例えば、空手では60年の歴史がある空手連盟がありまして、立川錬成館という武道場で活動しております。ですので、それを生業としている道場というのは立川市にはありませんが、専門的な団体ということであれば、体育協会の加盟団体で足りるかと思えます。

【副委員長】

町道場ではなくても、例えば警察の道場はどうなんでしょうか。

【D委員】

警察ということであるならば、それはありうると思います。

【G委員】

幅広い対象に調査するために、簡単な質問になっているのだと思いますが、特に4番のご意見・ご感想があればお寄せくださいですが、これを送付される側の方は、計画素案を初めて見るので、非常に雑駁で、どのように答えて良いか、わからないのではないかと思います。

ですので、そんなに細かい事を質問することはないですが、少し具体的な質問を加えた方が答えやすいかと思います。

【委員長】

おっしゃる通りで、答えていただけるような仕立てにするのは重要だと思います。

一般のスポーツや文化的な活動に携わっている方には、少し縁遠い資料なのかと思いますので、例えば、資料5の1ページ目に、立川市の願いのような、「こんな子どもを育てるために部活動の改革を進めています」というような、タイトルを入れた方が、「アンケートに協力してみよう」とか、「子どもたちのために一肌脱いでみよう」という方が出てくるのではないかと思います。

ほか、いかがでしょうか。

<意見無し>

【委員長】

内容については、おおよそこのような形で良いと思われそうですが、答えやすい工夫をしていただくことを検討いただけるとありがたいと思います。

3. 中央大学との部活動連携(トライアル事業)について(報告)

【委員長】

それでは、次第の3「中央大学との部活動連携(トライアル事業)について(報告)」を事務局よりご説明お願いいたします。

【事務局・指導係長】

「資料6：中央大学との部活動連携(トライアル事業)の実施について」をご覧ください。

本市における休日部活動の地域連携・地域移行における、トライアル事業として、本市と包括連携協定を締結している中央大学との連携・協働により、部活動連携の取組を実施することとなりましたので、ご報告いたします。

現在、部活動指導員を配置しておらず、かつ、部活動顧問が専門的な技術指導を行うことが難しい運動部から優先的にモデル校を選定し、休日に月4回程度のペースで実施したいと考えております。なお、大学の部活動とのマッチン

グの中で、月4回は難しいが、月1回ならできるといったような調整は入るかと思しますので、可能なペースで実施をしていきたいと考えております。

本格的には令和6年度から実施していく方向で調整を進めております。事業の進捗状況等につきましては、改めて来年度以降の検討委員会で報告をさせていただきます。

なお、本取組は、トライアル事業の一例であり、今後も地域のスポーツ・文化芸術団体や大学、企業、プロスポーツチーム等、地域団体との連携・協働により、各種トライアル事業を創設したいと考えております。

説明は以上となります。

【委員長】

ありがとうございました。ただいまの説明についてご意見、ご質問などありますでしょうか。また、地域団体と連携したトライアル事業を充実させていきたいということですが、このあたりについても、中央大学との連携にとどまらず、ご意見頂戴できたらと思います。

【副委員長】

中央大学が協定締結されているので、まず中央大学からということかと思いますが、うちの大学も近いですし、連携できるかなと思いました。もう少し離れば、法政大学もありますし、どの大学も地域貢献活動のような形で公開講座をやっていたりしますので、連携も出来るかと思います。

先ほど、月1回からでも、というお話でしたが、うちの大学ですと、新体操、陸上、サッカーなどは、中学生ではありませんが、キッズを呼んで、定期的にレッスンのようなことをやっています。

おそらく、近隣大学でもそのようことをやっていると思いますので、協定締結しているところから優先的にというのはあるとは思いますが、もっと弾力的に考えた方が良くかと思いました。もちろん、断られる可能性もあると思いますが。

【委員長】

おっしゃる通りで、東京には大学がたくさんありますので、中央大学さん以外も含めて、今後、ご検討いただければと思います。

ほか、いかがでしょうか。

<意見無し>

【委員長】

先ほどの、質の担保と関係してきますが、今は、中学生でもスマホを持っていて、SNSなどで、学生と生徒が繋がってしまうことや、学校の部活動のことを発信されることも想定されます。大学で学生が教育実習に行くときにも、かなりきつく指導しても、なかなかうまくいかないこともあります。後で、大きなトラブルの元になりますので、そのあたりの指導は、徹底してやられた方がよいと思います。研修のようなことを市ですということも重要かと思いません。

これから大学との連携を実施するということですね。

【事務局・指導係長】

はい。今調整を進めており、本格的には来年度から実施ですが、もし前倒しできれば、今年度からでもと考えており、今4つの部活動をピックアップし、中央大学にマッチングできないか調整をお願いしています。

【委員長】

わかりました。進捗状況や、他の課題については、次の会議等々でご報告いただき、皆様で議論できたら良いと思います。

それでは、ほかにご意見等もないようですので、このあたりで終了とさせていただきます。

本日の議事は以上となります。

これをもちまして、令和5年度第2回立川市立中学校部活動の地域連携及び

地域移行に関する検討委員会を終了いたします。

ありがとうございました。

— 終了 —